

2002年7月29日

「情報セキュリティを考慮した環境保全システム」の導入拡大 情報セキュリティの確保と循環型グリーン購入による環境保全を両立

(株)日立情報システムズ(社長：高須昭輔、本社：東京都渋谷区、以下「日立情報」)は、大王製紙(株)、東京紙パルプ交易(株)、(株)日立物流と共同開発し自社で実践している「情報セキュリティを考慮した環境保全システム」を、日立グループ内外に向けて本格的に提供を開始しました。

本システムは、使用済み機密文書類の「情報セキュリティ確保」と、これらの古紙をOA用紙や印刷用紙などに再生し再び自社で使用する「循環型グリーン購入」を両立させるものです。

本システムは、日立グループ新環境活動「GREEN21」における廃棄物削減や、「グリーン調達」の拡大に貢献するものとして期待されています。現在、日立グループでは、開発元の日立情報をはじめ、(株)日立製作所の首都圏地区4事業所(本社ビルなど)、(株)日立システムアンドサービス、日立電子サービス(株)、日立キャピタルデータサービス(株)のグループ各社(計10事業所)に、本システムが導入されています。

また、日立グループ以外への普及にも注力しており、(株)ファンケルスマイルほか3事業所に導入されています。2003年3月には、日立グループ内外の計20事業所で本システムが稼働する見込みです。

【本システムの特長】

本システムの特長は、一般的な「紙資源リサイクルシステム」ではなく、企業の社会的責任の一つである「個人情報ほか機密情報の社外への漏洩防止」を、使用済み機密文書の領域で徹底的に考慮した点にあります。これにより、企業に課せられた「情報セキュリティの確保」と「循環型グリーン購入による地球環境の保全、持続可能な循環型社会づくり」という2つの課題を一挙に解決するのみならず、ISO14001やプライバシーマーク(個人情報保護)等の認証取得・維持・更新の基盤作り、リサイクル経費や再生紙購入経費の削減、知的障害者の雇用拡大までも可能にする、付加価値の高い「ソリューションシステム」となっています。

【本システムの導入効果・工夫点】

本システムには、日立情報が1990年から取り組んで来た情報セキュリティの確保や環境保護活動のノウハウが、随所に組み込まれています。具体的には次のとおりです。

「紙ごみゼロ」と、不注意による「情報漏洩リスクゼロ」を実現するため、紙屑籠を廃止しています。

使用済み文書のオフィス内での回収面では、情報セキュリティを考慮して、オフィス内の施錠キャビネットや「錠付き文書回収キャビネット」等の使用により、メモ紙1枚まで、すべての紙の回収を実現しています。

自社での取り組みのノウハウとして特許を取得

回収した使用済み文書の処理面では、自社内で湿式 AS シュレツダ（日立造船富岡機械(株)製造）を用いて、紙に少量の水を加えて紙をパルプ状にほぐし、紙の原形をなくす処理を行っています。この結果、パルプ状にほぐされた紙は、トイレトーパー等への一回限りの再生ではなく、OA 用紙、印刷用紙等の再生原料として 100%使用が可能となります。

また、紙の原形がなくなるため、記載された情報の判読が極めて困難となり、「情報セキュリティリスク 0%」が実現できます。

パルプ状古紙の社外への搬出は、運搬面における環境負荷軽減を考慮し、各社へ品物の納品に来る(株)日立物流の帰りの車両を活用しています。

オフィス内で回収・処理されたパルプ状の古紙は、東京紙パルプ交易(株)経由で大王製紙(株)に搬入され、OA 用紙や印刷用紙ほか、各種再生紙の原料として 100%使用されます。この結果、機密文書等の焼却・埋立てがなくなり、焼却・埋立てに伴う環境汚染の防止を図ることができます。

大王製紙(株)で製造された OA 用紙や印刷用紙ほか各種の再生紙を「循環再生紙」として東京紙パルプ交易(株)経由で購入し、(株)日立物流の納品便で各社に循環させています。これにより、本システムを導入した会社の紙資源を社内で繰り返し使用する「循環型グリーン購入」が実現できます。

このような工夫により、「情報セキュリティの確保」と「循環型グリーン購入による地球環境の保全、持続可能な循環型社会づくり」の 2 つの課題が一挙に解決されるだけでなく、各社における ISO14001、プライバシーマーク等の認証取得・維持・更新の基盤作りやリサイクル経費・再生紙購入経費の削減も併せて実現できます。

例えば、日立情報本社の場合、従業員一人当たりの一般廃棄物発生量は、1990 年当時一日 364 g ありましたが、様々な改善対策を総合的に実施した結果、2001 年には 20 グラム（紙類は廃棄ゼロ）に減少し、月当たり約 190 万円の経費節減を実現しています。

現在、本システムを通じて、月平均約 30 トン（A 4 判コピー用紙換算 750 万枚）の「循環再生紙」が日立グループ内外の各社に循環し、コピー用紙や PC プリンター用紙などの OA 用紙、各種の印刷用紙などに繰り返し使用されています。

【知的障害者の雇用拡大にも貢献】

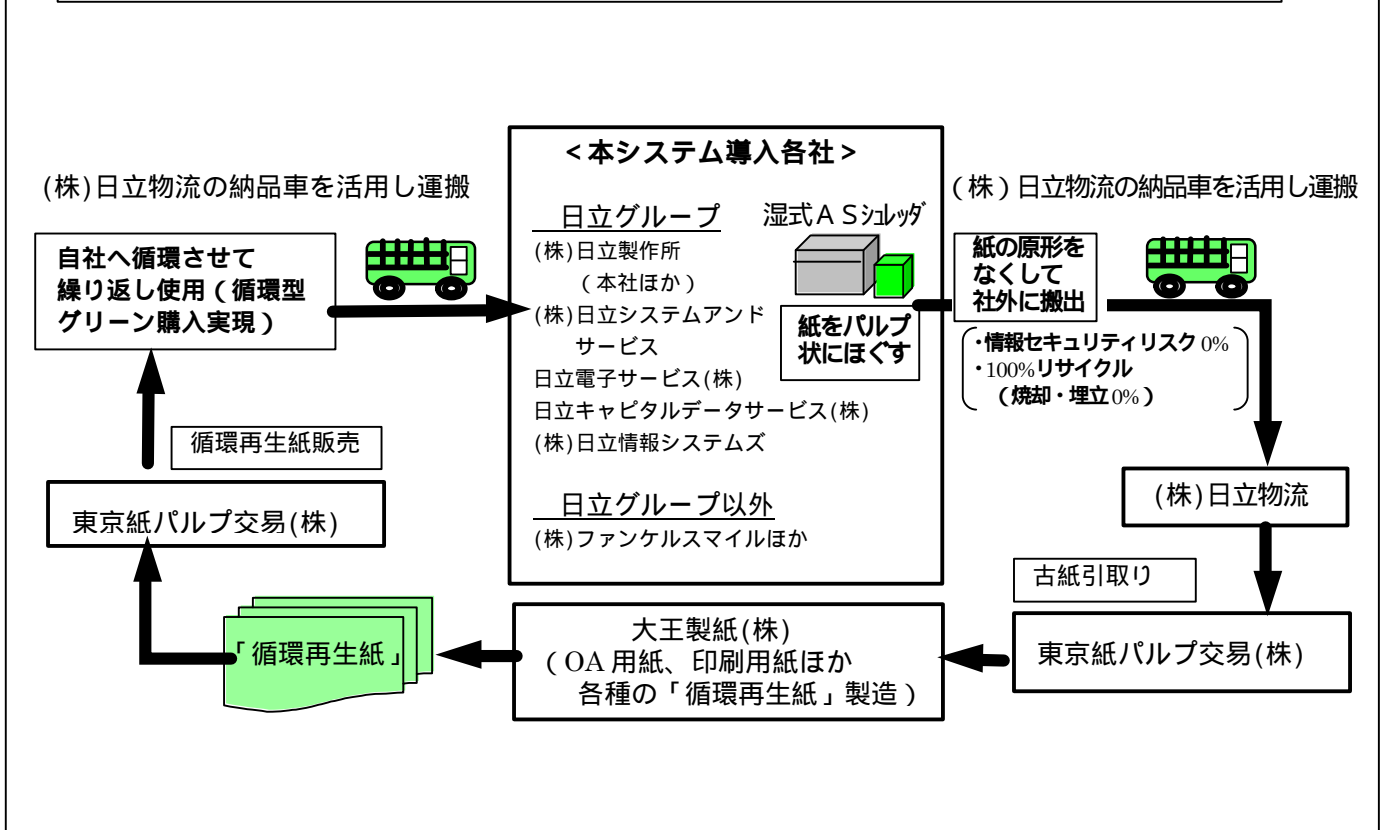
本システムは、2001 年 4 月に(株)ファンケルスマイルに導入され、ファンケルグループで発生する使用済み個人情報（通販事業に伴う顧客情報等機密書類）の情報セキュリティ確保、紙資源リサイクルの向上、循環型グリーン購入を実現しています。また、(株)ファンケルスマイルでは本システムの一括運用（使用済み機密書類の回収から湿式 AS シュレツダによるパルプ状への処理まで）を知的障害者が担当することにより、新たな仕事を創出し、知的障害者の雇用拡大にも貢献しています。

今後も日立情報では、環境に配慮したシステム・サービスの提供、環境に配慮した事業活動を、積極的に推進してまいります。

【「情報セキュリティを考慮した環境保全システム」の概念図】

機密書類等は、自社内の湿式ASシュレッダで、少量の水を添加してパルプ状にほぐし、紙の原形をなくしてから、社外に搬出

- ・情報セキュリティリスク 0%
- ・100%リサイクル（焼却・埋立 0%）



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社日立情報システムズ 社長室文書広報課 松林
Tel 03-3464-5073、Fax 03-3496-5684、E-mail: press@hitachijoho.com

以上